平成１７年度海岸工学委員会(第 2 回委員会)議事録(案)

日時：平成 17 年 11 月 9 日(水)　18：30～20：30
場所：青森市文化会館　５F　大会議室(2)
出席者：岩田相談役，渡辺相談役
喜岡委員長，佐藤幹事長
青木，池谷，今村，上野，内村(代理: 小林)，大山，岡安，窪内，栗城，黒木(代理: 片野)，五明，柴山，島田，鈴木，清野，武若，丹治(代理: 桐)，出口，畑田，半沢，古川，前野(代理: 西田)，間瀬，松見，水谷，村上，横木，渡部　以上委員
泉宮，磯部(代理: 鯉渕)，木村，栗山，後藤，小林，榊山，重松，清水，高木，中野，中山，灘岡，橋本，福濱，藤原　以上委員兼幹事
熊谷(事務局)
※敬称略

議事
１．報告事項
（佐藤幹事長，添付資料 P1, P2）
・土木学会のコピー費が有料化するため極力ペーパーレス化を図り，配布資料ではなくパワーポイントを使って幹事会活動，幹事会メンバーの交代，小委員会委員について報告された.

２．海岸工学論文集(第 52 巻)についての報告
(佐藤幹事長，添付資料 P3,配布資料 2-1, 2-2)
・佐藤幹事長より本年度より変更した海岸工学論文集出版形態に伴う論文集価格改定について報告された.

３．第 52 回海岸工学講演会について
・佐藤幹事長並びに今村委員より前日シンポジウムについて報告された（配布資料 2-3）. 参加人数は約 150 名で，内半数は海岸工学研究者，半数は地元の参加者であり，海岸工学研究者以外の方々の津波に関する関心の高さが説明された.
・佐藤幹事長より海岸工学講演会第 1 日目の各会場入場者数について報告された(配布資料３). また第 2 日目に開催される懇親会への参加が呼びかけられた.

４．第 53 回海岸工学講演会について
（中野委員，配布資料 4-1）
・徳島県阿南市にて開催予定である第 53 回海岸工学講演会の準備状況について報告された.

特に，市民向けシンポジウムを開催予定であること，阿南市内では宿泊施設が限られる(200室程度)ため，参加者の一部は徳島市内のホテル（450 名程度確保してある）に宿泊して頂く必要性について説明された．

５．第 54 回海岸工学講演会について
(村上委員)
・第 54 回海岸工学講演会を平成 19 年 11 月第 2 週に宮崎で開催することで検討している説明がされた．引き続き詳細の検討が要請された．

６．APAC について
（灘岡委員）
・9 月に韓国で開催された第 3 回 APAC について報告された．全約 150 編の論文のうち半数は日本からの投稿論文であり，APAC に対する日本の大きな寄与が説明され，次回(2007年)中国南京市で開催される第 4 回 APAC への参加が呼びかけられた．

７．Coastal Engineering Journal について
(柴山委員，配布資料 5)
・CEJ の発行状況(Volume 47)と投稿状況について報告された．来年度予定しているインド洋津波に関する special issue の編集作業が進んでいることについて報告された. 現在, CEJ は国外約 70 部，国内約 60 部の購読部数であるが，国内からさらなる投稿数及び購読部数を増やす必要があり，これらについて協力を頂ける様呼びかけられた（国内であと 20 部程購読部数を増やすことが当面の目標）．

８．小委員会報告
・津波小委員会（今村委員，資料 6-1）
既存の 4 分科会の活動報告に加えインド洋津波調査報告がされた．
・沿岸域研究連携推進小委員会（旧対外連携小委員会）（青木委員，資料 6-2）
わかりやすい小委員会名に変更した．小委員会での議事が報告された．
・　広報小委員会(岡安委員)
小委員会活動（ウェブの更新が主体）が報告された．

９．第 41 回水工学に関する夏季研修会報告について
(佐藤幹事長，配布資料７，８)
・本年度開催された第 41 回水工学に関する夏季研修会参加人数が例年の約 7 割程度に激減したため，この原因について話し合われた．
・小林委員による分析：参加人数は年々減少傾向にあるが，特に一般の参加者が減ってい

る．テーマによる依存性は少ない．時期は，8 月上旬が他の時期より参加者が増える傾向があり，曜日は木曜日と金曜日すると学生参加者は増加するが，水曜日木曜日にすると一般参加者が増加する傾向がある．
・佐藤幹事長より，開催場所への依存性（大都市からの時間距離や観光資源を含め）はあるであろう．
・間瀬委員より，テーマの具体性という観点では，依存性があるのではないか．

１０．　第 42 回水工学に関する夏季研修会(中部地区開催について)
(小林委員)
・海岸・港湾コースは防災をキーワードにする予定であることが報告された．

１１．その他報告事項
・柴山委員より，11 月 27 日から柴山団長をはじめ 7 名が 2005 年カトリーナ災害調査団として調査を行う予定であることが報告された．
・水谷委員より，2004 スリランカ津波被害調査について報告された．調査報告詳細は報告書及びウェブにまとめられている．
・大山委員より，海洋工学パネルプログラム（配布資料 11）の開催の紹介と参加の呼びかけがあった．

１２．論文査読方法の変更について
(佐藤幹事長，配布資料 10-2，添付資料Ｐ4)
・現在の査読方法には，郵送費がかかる点，全文査読に十分な時間を確保できないなどの問題点がある．土木学会論文集の投稿論文の電子化がされた背景もあり，海岸工学論文集投稿の電子化及び査読方法の変更に関する幹事会での議論の結果案（添付資料 P4）が報告され，これについて議論された．投稿論文受付用のサーバー及びシステムは外注予定である．電子化された投稿受付システムについては配布資料 10-2 を参照．
・渡辺相談役より，論文の集計から採択までの手順と，論文の採択を行うのは現行通り幹事会で行うかどうか，また論文集の CD-ROM 化についての質問に対して，佐藤幹事長よりこれらは基本的には今までと大きく変更されないと説明された．また，電子ジャーナル化をすぐにしようと考えておらず，現状の出版形態を維持する考えが説明された．
・間瀬委員より，編集小委員会での査読方法及び出版形態の検討（配布資料 10）が紹介された．
・武若委員より，編集小委員会の開催（委員の集合）は必要ではないかとの質問に対して，佐藤幹事長より，査読の電子化は効率化を図るものであり，開催・集合を制限するものではないと説明された．
・論文査読方法の変更案の了承が得られ，WG で詳細を詰めていくことに異論はなかった．

１３．海岸工学論文賞について
（佐藤幹事長，泉宮委員，添付資料 P5）
・添付資料 P5 の案について説明された．分野に偏りなく 3 名程度，2 段階査読時に推薦し幹事会で決定する．受賞者の年齢による区別はせず，当該年度の論文の表彰をすべきとの意見が多数であった．
・柴山委員より，受賞論文は CEJ に推薦するのではなく義務化すべきとの意見に対して，佐藤幹事長より，義務化は少々きついのでは？強く推薦する位にすべきではないかとの意見がだされた．
・大山委員より，受賞論文が CEJ の査読でリジェクトされた場合（可能性）についての質問に対して，受賞者には強く CEJ への投稿を推薦するが，CEJ の査読は厳正に行うべきであり正式な手順を受ける必要があることが確認された．
・渡辺相談役より，分野に偏りなく 3 人の受賞論文をどのように決定するのかとの質問に対して，佐藤幹事長より，難しい問題だが基本的には採点結果をもとに幹事会に任せてもらうしかないと説明された．

１４．委員会内規の変更について
（佐藤幹事長，資料 9）
・佐藤幹事長から修正が必要となった背景及び修正項目について説明された．修正項目について承認された．

１５．その他
・間瀬委員より，海岸工学論文集第 53 巻の原稿執筆要項（案）と原稿体裁を統一するために作成したチェックシートについて説明された．
・渡辺相談役より，論文の正誤表を討議集に掲載することを義務付けるべきではとの意見がだされた．横木委員より，現行の討議集は，基本的に質疑を受けた人が回答をすることになっているため，質疑を受けた人のみ正誤表を提出できることになる．著者全員に周知する必要があるのではないかとの意見がだされた．小林委員より，討議集の討議は自分の論文に対しても可能であるとの説明がされた．質疑がない著者にも全員に正誤表を提出するようにお願いをすることに異論はなかった．
・清野委員より，水産環境，生態系の管理に関する意見の協力についての要望があった．
・　重松委員より，本年より変更された出版形態による論文集について気づいたことを熊谷さんへ連絡して頂く様要望があった．
（議事録：渡部記）